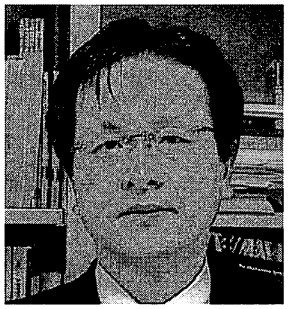
平成26年度(2014)年9月11日発行

大学美術教育学会 会報 No.31

編集・発行　大学美術教育学会広報室
理事長　増田金吾（東京学芸大学）
総務局長　芳賀正之（静岡大学）
事務部　佐藤聡史　〒389-0406　長野県東御市八重原2912
TEL：090-2560-5998/FAX:0268-61-6162
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp
事務支局　〒602-804　京都市上京区下立売通小川東入る西大路町146番地　中西印刷株式会社　学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacos.com

『学会理事長就任のご挨拶』



大学美術教育学会理事長　増田　金吾（東京学芸大学）

この度、大学美術教育学会理事長への就任要請をいただき、微力ではありますがお引き受けすることにいたしました。学会会則第２条に「本会は会員相互の協力により、美術教育及び美術に関する理論及び実践的研究を行う。」とその目的が掲げられていますが、これらが着実に行われるような状況を作るよう努力して参ります。その際、本学会設立の元となっている日本教育大学協会全国美術部門とも適度な距離を取りつつも、協力しこれを進めて行きたいと考えます。

学会活動として大切なことは多々ありますが、先ずは研究の充実ということがあろうかと思います。その意味では、学会誌委員会の活動に負うところは大きく、とりわけ公平な審査と速やかな学会誌の発行が必要です。また、前述したように本学会では、美術教育は勿論、美術に関することも、また理論研究や実践的研究も口頭発表や学会誌への投稿が可能です。美術教育に限らず、教科専門の先生にも大いに発表や投稿をして頂き、また、学校教育現場の先生には実践的研究の成果を発表・投稿して頂ければと考えます。もちろん、そうした枠にとらわれない在り方も大いに結構だと思います。

また、グローバル化の重要性が叫ばれる今日、国際交流委員会の果たす役割は大きいものがあります。着実に足下（日本）を見ることと、世界を見つめる視点は共に重要であると考えます。委員諸氏を中心に会員の積極的な関わりを望みます。

一方、今日大学や美術教育のおかれた状況は、厳しいものがあります。美術教育を語る以前の問題として、「日本の先生は世界一忙しい」（OECDの調査）と言われますが、それは調査が実施された中学校に限らないと推察できます。大学においても似たような状況があり、文部科学省からエビデンスが求められ、先生達はその数値目標達成のため大学から檄を飛ばされています。そうした多忙感漂う中で美術教育の意義や存在価値が問われています。

こうしたことに、本学会としても立ち向かって行かなければなりませんが、一学会の力には自ずから限界があります。そこで、以前より組織されていた「造形芸術教育協議会」（美術科教育学会、日本美術教育学会、大学美術教育学会よりなる連携組織）などを通じ、連携して対応することが必要かと思います。さらに、平成26年度第１回運営委員会（６月22日開催）にて承認された日本音楽教育学会等との次期教育課程へ向けての連携の話が進みつつあります。こうした「芸術教育」としての対応も重要と考えます。

以上の様な活動には、組織を円滑に動かす「事務局（総務局）」が重要な役割を果たします。この根幹部分をより活性化するために、大嶋彰前理事長は事務の一部を会社に委託するアウトソーシングという形を考えました。今後はアウトソーシング体制を軌道に乗せ、さらに円滑な学会運営を図って行かねばならないと思っております。

会員の皆様のご支援とご協力をお願いしつつ、就任のご挨拶といたします。

平成２６年度役員・各種委員会委員一覧

■理事長　増田金吾（東京学芸大学 26-27）

■副理事長

（正）小野康男（横浜国立大学 25-26）

（副）新関伸也（滋賀大学 26-27）

■特別委員　大嶋　彰（滋賀大学 26）

山口喜雄（宇都宮大学 26）

■総務局

総務局長　芳賀正之（静岡大学 26-27）

総務部長　佐藤賢司（大阪教育大学 26-27）

総務局理事

郡司明子（群馬大学 25-26）

松尾大介（上越教育大学 25-26）

喜多村徹雄（群馬大学 26-27）

石上城行（埼玉大学 26-27）

相田隆司（東京学芸大学 26-27）

畠山智宏（清和大学短期大学部 26-27）

■学会大会運営委員

宮崎光二（福井大学 25-26）

渡辺邦夫（横浜国立大学 26-27）

■監事　西村俊夫（上越教育大学 25-26）

小澤基弘（埼玉大学 24-26）

■事務部　佐藤聡史（民間 21-26）

■地区全国理事

Ⅰ〔北海道〕

坂巻正美（北海道教育大学岩見沢校 25-26）

佐藤昌彦（北海道教育大学札幌校 26-27）

〔東　北〕

蝦名敦子（弘前大学 25-26）

煤孫康二（岩手大学 26-27）

Ⅱ〔関　東〕

松島さくら子（宇都宮大学 25-26）

茂木一司（群馬大学 26-27）

Ⅲ〔北　陸〕

隅　　敦（富山大学 25-26）

阿部靖子（上越教育大学 26-27）

〔東　海〕

松本昭彦（愛知教育大学 25-26）

山本政幸（岐阜大学 26-27）

Ⅳ〔近　畿〕

岩村伸一（京都教育大大 25-26）

世ノ一善生（滋賀大学 26-27）

〔四　国〕

福井一真（愛媛大学 25-26）

金子宜正（高知大学 26-27）

Ⅴ〔中　国〕

新井知生（島根大学 25-26）

福田隆眞（山口大学 26-27）

〔九　州〕

栗山裕至（佐賀大学 25-26）

佐藤敬助（長崎大学 26-27）

■私立大学代表理事

磯部錦司（椙山女学園大学 25-26）

三澤一実（武蔵野美術大学 25-26）

■学会誌委員会（H26 年度　18 名）

委員長　新関伸也（滋賀大学 25-26）

副委員長　佐藤賢司（大阪教育大学 26-27）

新野貴則（山梨大学 25-26 総務局兼任）

委員　[H25-26 年度委員　7 名]

阿部　守（福岡教育大学 25-26）

新井　浩（福島大学 25-26）

奥村高明（聖徳大学 25-26）

南部正人（北海道教育大学旭川校 25-26）

平野千枝子（山梨大学 25-26）

三根和浪（広島大学 25-26）

鷲山　靖（金沢大学 25-26）

委員　[H26-27 年度委員　8 名]

赤木里香子（岡山大学 26-27）

小野康男（横浜国立大学 25-27）

小谷　充（島根大学 26-27）

白井嘉尚（静岡大学 26-27）

竹井　史（愛知教育大学 26-27）

芳賀正之（静岡大学 26-27）

松本健義（上越教育大学 26-27）

山野てるひ（京都女子大学 26-27）

■国際交流委員会（H26 年度　10 名）

委員長　安東恭一郎（香川大学 26-27）

副委員長　鈴木幹雄（神戸大学 26-27）

煤孫康二（岩手大学 26-27）

委員　[H26-27 年度委員　6 名]

池内慈朗（埼玉大学 26-27）

中村和世（広島大学 26-27）

長田謙一（名古屋芸術大学 26-27）

福田隆眞（山口大学 26-27）

甲田小知代（新潟市立潟東中学校 26-27）

結城孝雄（東京家政大学 26-27）

協力委員

竹内とも子（千代田区立九段小学校 26-27）

平成２５年度　事業報告

6月 9日（日）	学会運営委員会（オフィス東京）
6月 16日（日）	第1回学会誌委員会
6月中旬	「京都大会案内（第2次）」 研究発表（口頭）・ポスター発表・ポスター展示・投稿論文登録の「申込案内」 平成24年度会計監査（小澤監事・増田監事）
7月 20日（土）	大学美術教育学会「京都大会」研究発表（口頭）・ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切
7月 31日（水）	研究発表（口頭）・ポスター発表「概要集原稿」提出締切
9月 8日（日）	「投稿論文」締切（消印有効）
9月 10日（火）	「学会会報・29号」（「京都大会案内（最終）」）
9月 12日（木）	京都大会参加申込　締切
9月 15日（日）	学会運営委員会（東京学芸大学）
10月 11日（金）	大会前日諸会議（拡大総務局会、第1回拡大理事会、各種委員会（第2回学会誌委員会・国際交流委員会））（京教大学）
10月 12日（土）	第52回大学美術教育学会「京都大会」開催（京都教育大学）、学会総会、シンポジウム、研究発表（口頭）、ポスター発表・ポスター展示 学会・部門合同懇親会
10月 13日（日）	研究発表、学会総会、閉会式 大会開催大学引継ぎ（次期開催大学-京都教育大学）
10月 26日（土）	第3回学会誌委員会
12月 17日（火）	「投稿論文の最終提出」提出締切（必着）、学会誌編集作業開始
（平成26年）	
1月 25日（土）	学会運営委員会・次期代表選考
1月末	投稿論文掲載者による掲載負担金納入
2月 16日（日）	造形芸術教育協議会関係（三学会連携協議）
2月末	投稿論文（校了）
3月 15日（土）	拡大総務局会、第2回拡大理事会、各種委員会（第4回学会誌委員会・国際交流委員会）（TKP 東京・京橋）
3月中旬	「学会誌・第46号」発行・郵送 、「学会会報・第30号」（次期大会予告）発行、「学会会員名簿2013」発行・発送
3月末日	年度組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ

平成２６年度　事業計画（案）

6月 22日（日）	第1回 運営委員会（静岡／パルシェ７Ｆ・会議室）
6月下旬	「福井大会案内（第1次）」 研究発表（口頭）・投稿論文登録の「申込案内」
8月 8日（金）	事前投稿登録
8月 18日（月）	造形芸術教育協議会関係（三学会連携協議）
9月 1日（月）	大学美術教育学会「福井大会」研究発表（口頭）の「申込」締切 「概要集原稿」提出締切
9月 8日（月）	ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切
9月 10日（水）	「学会会報・31号/福井大会案内（最終）」
9月 12日（金）	「投稿論文」締切（必着）
9月中旬	平成25年度会計監査（西村監事・小澤監事）
9月 19日（金）	福井大会参加申込　締切
9月 21日（日）	第2回 運営委員会（静岡／パルシェ７Ｆ・会議室）
10月 3日（金）	大会前日諸会議（拡大総務局会、第1回拡大理事会、各種委員会（第1回学会誌委員会・国際交流委員会））
10月 4日（土）	第53回大学美術教育学会「福井大会」開催式（福井大学）、学会総会、研究発表（口頭）、学会・部門合同懇親会
10月 5日（日）	シンポジウム、ポスター発表・ポスター展示、研究発表（口頭）、閉会式、大会開催大学引継ぎ（次期開催大学-横浜国立大学）
10月 26日（日）	第2回学会誌委員会
12月 10日（水）	「投稿論文の最終提出」提出締切（必着）、学会誌編集作業開始
（平成27年）	
1月 30日（金）	投稿論文掲載者による掲載負担金納入（厳守）
3月中旬	拡大総務局会、第2回拡大理事会、各種委員会（第3回学会誌委員会・国際交流委員会）（場所　未定） 次年度　組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ
3月末日	「学会誌・第47号」発行・郵送 、「学会会報・第32号」（次期大会予告）発行

第53回 大学美術教育学会 福井大会 大会日程

平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会・総会

平成26年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに、第53回大学美術教育学会（福井大会）を福井大学で開催いたします。これまでの美術教育を真摯に振り返りつつ、これからの美術教育の活路について積極的な教育研究・協議がなされる大会にしたいと思っています。全国美術部門協議会の参加及び学会の研究発表・大会参加のほど、よろしくお願い申し上げます。

○大会テーマ　「教えること・育てること－美術教育の原点を問い直す」
○内　　容　企画行事、研究発表、総会、懇親会など
○企画・運営　福井大会実行委員会
○主　　催　日本教育大学協会全国美術部門、大学美術教育学会
○後　　援　福井県教育委員会、福井市教育委員会

1．日　時：**2014年10月4日（土）・5日（日）**　全国大会及び総会ほか
※10月3日（金）大会前日諸会議

2．会　場：**福井大学（文京キャンパス）**　〒910-850　福井県福井市文京3丁目9－1
総合研究棟Ⅰ、総合研究棟Ⅴ（教育系1号館）

3．参加費：会員・一般　事前申込：4,000円　当日申込：5,000円
院生・学生　事前申込：2,000円　当日申込：3,000円　※現職教員含む。
懇親会：3,500円（会場：福井大学文京キャンパス食堂【味菜】）

4．申込方法
福井大会の参加及び発表申込については、オンライン大会登録受付システムを使って行います。
参加申込は当日でも可能です。

5．問い合わせ先

■オンライン登録システムに関する問い合わせ
中西印刷　大会システムサポートデスク
（参加申込・発表申込・概要集）
Tel　075-415-3661　E-mail：uaesj53@nacos.com

■大会に関する問い合わせ
教大協全国美術部門・大学美術教育学会
福井大会実行委員会委員長　宮崎光二
Tel & Fax: 0776-27-8702　E-mail: kmiyazak@f-edu.u-fukui.ac.jp

■大学美術教育学会　学会総務（総務局長：芳賀正之）
事務部長：佐藤聡史　〒389-0406　長野県東御市八重原2912
E-mail: daibibumon(at)po15.ueda.ne.jp

【大会前日の諸会議】 平成２６年１０月３日（金） 各委員会、役員会

総合研究棟Ⅴ（教育系１号館）【会場は当日掲示】

13:00-13:30	拡大総務局会議【正副理事長・正副代表・総務局院・事務部員】 ※大会議室		
13:30-14:20	全造連大学委員会【部門委員会委員】 ※全国大学造形美術教育連絡協議会 （年１回の美術部門全造連大学委員と全美協の懇談会） ※多目的室		
14:20-15:20 ※審議延長 17:00 まで可	【部門委員会委員】 全国学校美術教育支援委員会 ・附属学校部会 ・学校教育支援部会 ※1 階演習室等	【学会委員会委員】 国際交流会 学会誌委員会 ※1 階演習室等	【私学】 全美協役員会 ※1 階演習室等
15:10-15:30	受付【学会・部門共通】 ※大会議室		
15:30-16:30	拡大理事会【学会理事役員＋部門委員役員（共通審議事項を含む）】 ※大会議室		
16:30-17:10	美術部門協議役員会【部門委員役員】 ※大会議室（多目的室）		

第１日目

平成２６年１０月４日（土） 総合研究棟Ⅴ（教育系１号館）

9:00- 学会・部門受付 （教育系１号館 １階ロビー）		
9:30-10:00	平成 26 年度 日本教育大学協会全国美術部門 開会式 第 53 回 大学美術教育学会全国大会 開会式	2 階 大 1 講義室
10:00-11:25	日本教育大学協会全国美術部門 協議会 ※日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会合同	
11:30-12:00	口頭発表	1 階 11・12・13・14・101・102
12:00-13:00	昼休憩 **※学食あり**	福井大学食堂【味菜】
13:00-16:30	口頭発表	1 階 11・12・13・14・101・102
	全国学生会議	2 階 205
16:30-17:30	日本教育大学協会全国美術部門総会 大学美術教育学会総会	2 階 大 1 講義室
	全国大学造形美術教育教員養成協議会総会	2 階 大 2 講義室
18:00-20:00	懇親会	福井大学食堂【味菜】

第２日目

平成２６年１０月５日（日） 午前：総合研究棟Ⅰ 午後：総合研究棟Ⅴ（教育系１号館）

9:00- 学会・部門受付 （教育系１号館 １階ロビー）		
9:30-12:30	学会フォーラム 〈美術・遊び・大人〉⇔世界（共同体）	総合研究棟Ⅰ 13 階
12:30-13:30	昼休憩 **※学食なし**	
13:30-13:55	ポスターセッション（ポスター発表・ポスター展示）	1 階・2 階 通路
14:00-15:30	研究発表Ⅳ	1 階 11・12・13・14 101・102
15:30-	引き継ぎ（大会運営理事 H26 福井大学・H27 横浜国立大学）	1 階 大会議室

第１日目　研究発表

	会場１（11 教室）	会場２（12 教室）	会場３（13 教室）	会場４（14 教室）	会場５（101 教室）
11:30 ① 11:55	読解ベースの西洋絵画鑑賞の一提案　リュバン・ボージャン「チェス盤のある静物（五感の寓意）」の三層の読み取り 岡田匡史（信州大学）	幼児期における造形活動から図画工作学習発展に関する検討 金子優人（宇都宮大学大学院）	教育環境におけるデジタルメディアの現状と課題－韓國・欧米のデジタルメディアの利活用状況調査から- 安東恭一（香川大学） 金政孝（香韓國教育課程評価院）	絵が描けない児童・生徒のための「恥」の考察 島田翔平（埼玉大学大学院）	「工芸的造形」と「造形遊び」に見られる近似性 隼瀬大輔（滋賀大学）
13:00 ② 13:25	美術教育はどうしたらいいのか？ アート・多文化・伝統・身体・メディアによる協同と表現のワークショップの視点から 茂木一司（群馬大学）	スペインと日本の初等美術教育の比較（１）－描画指導に関わる題材の分析を中心として- 網谷夏実（富山大学） 隅敦（富山大学）	協同的な学び論の検討Ⅳ―「協同的創造」のための学習環境デザインの検討と実践― 手塚千尋（東京福祉大学短期大学）	芸術学会機関誌『スクールアート』(1949 年創刊）と次世代ものづくり教育カリキュラム構想 佐藤昌彦（北海道教育大学）	「造形遊び」における新聞紙の用い方の研究 村上真理（福岡教育大学大学院）
13:30 ③ 13:55	こどもの集団的な造形活動における技能の伝搬過程に関する研究(1)－他者への眼差し行為に着目した相互作用の分析－ 武田信吾（鳥取大学）	絵画をめぐる今日的問題について －「現代」と対峙する日本画- 筧有子（京都嵯峨芸術大学短期大学部）	子どもの造形的な活動の相互行為分析による臨床的研究のための基礎的考察～小・中学校と大学研究チームの相互連携プログラムの構想のために～ 秋山敏行（愛媛大学）	図画工作・美術科への〔苦手意識〕の研究Ⅰ－造形美術教育を質的に改善するために　－ 降籏孝（山形大学）	会場６ （205 教室） 全国学生会議
14:00 ④ 14:25	教員養成学部の絵画教育における省察的実践についての研究Ⅳ-他者評価による授業実践の効果の検討- 横地早和子（東京未来大学） 八桁健（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科） 小澤基弘（埼玉大学）	生きづらさを抱える「わたし」が解き放たれる美術表現- 障害のある人の表現活動に関する実践を通して - 安藤郁子（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科・秋田公立美術大学） 髙石次郎（上越教育大学大学院）	乳幼児の感性育成に着目した絵本の研究－母と子が優しさを共有する視点から－ 保田恵莉（講談社フェーマススクールズこどものアトリエ・ばら園園長（花園大学））	平面メディアのフレームに関する考察 福地英臣（福岡教育大学大学院）	
14:30 ⑤ 14:55	教員養成学部の絵画授業における SNS 利用の可能性とその効果についての実践的考察 小澤基弘（埼玉大学） 八桁健（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科） 有原穂波（埼玉大学大学院）	ポイエーシス（芸術実践）と教育の結節点を探る－「滋賀次世代文化芸術センター」の取り組みから－ 大谷祥子（滋賀大学大学院） 大嶋彰（滋賀大学）	環境と相互作用して展開する子どもの造形表現行為－4,5 歳児を対象としたジョイントマットを使用した活動から－ 村田透（大阪大谷大学）	身辺にある川をテーマとした作品制作について 吉村弥生（福岡教育大学大学院）	

第１日目　研究発表

	会場１（11 教室）	会場２（12 教室）	会場３（13 教室）	会場４（14 教室）	会場５（101 教室）
15:00 ⑥ 15:25	院内学級の実践から読み解く美術教育の意義と可能性 南雲まき（東京学芸大学）	山口正樹のアイデアスケッチに関する一考察 八重樫良二（北海道教育大学）	スペインの美術教育における評価についての研究 パストル・マタモロス・ソフィア　（富山大学） 隅敦（富山大学）	自己実現を可能にする子どもを育てる図画工作科の指導法－形成的アセスメントに着目して－ 村瀬つむぎ（広島大学大学院）	図画工作科における「つくりたいものをつくる」活動に関する研究 福井一真（愛媛大学）
15:30 ⑦ 15:55	美術科授業開き論－学年最初の授業の構造－ 有田洋子（島根大学）	カンボジア版「自由画教育運動」への期待 -JHP と共同で推進した美術教育拡充に向けた取組の成果と課題- 鈴木光男（東京未来大学）	モンゴル民族の伝統的家庭教育の衰退と内モンゴル美術教育の課題 格根薩仁（新潟大学大学院）	３D CAD を応用した色彩認識の測定方法の研究 町田由徳（岡崎女子短期大学）	特別支援学校と美術大学の連携による地域特化型交流学習の取組 北島珠水（秋田県立栗田養護学校） 池亀直子（秋田公立美術大学）
16:00 ⑧ 16:25	フェルメール作『手紙を読む女』と『牛乳を注ぐ女』の比較鑑賞論－美的特性及び主題の感受を中心に－ 立原慶一（宮城教育大学）	生徒と授業空間を創るということ－陶芸の実践を通して－ 橋本侑佳（同志社中学校）	福永晴帆研究 松久公嗣（福岡教育大学）	20 世紀後半以降の美術科教科書における「国際化」題材説明文の検討 山口喜雄（宇都宮大学）	フレームによる立体造形の研究 寺延見奈子（福岡教育大学大学院）

第２日目　研究発表

14:00 ⑨ 14:25	素材に基づく子どもの表現－二つの立体題材の比較考察から－ 蝦名敦子（弘前大学）	学習意欲を喚起する美術科学習指導法の研究－単元での自己決定場面における教育的契機の在り方－ 亀井美里（福岡教育大学大学院）	導入的解説から《非解説的観賞教育》への架橋という教育―ヨーロッパの体験的デモ番組の刺激を再考する― 鈴木幹雄（神戸大学）	フランスにおける美的教育の動向－「芸術活動の強化」から「芸術・文化教育構想」へ－ 小笠原文（広島文化学園大学）	画塾彰技堂の講義録『布置経営』と画学類纂『絵事三要－布置法』との関係について－英語原書を元にした比較による－ 重村幹夫（仁愛女子短期大学）
14:30 ⑩ 14:55	多主体間協働でつなぐ美術教育～COC 事業地域志向研究～ 北沢昌代（聖徳大学短期大学部）	米国における視覚芸術教育の新しいナショナル・スタンダードの検討 中村和世（広島大学）	造形表現行為の根拠としての〈場〉に関する研究 三盃美千郎（珠洲市立飯田小学校・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科） 松本健義（上越教育大学大学院）	アール・ブリュットが内包する「プリミティブであること」の意味の変化とそのルーツの考察 新井馨（大阪教育大学大学院）	中学生の美術科に関する課題価値についてⅡ－性差及び学年の発達段階の傾向から－ 花輪大輔（北海道教育大学）

15:00 ⑪ 15:25	ランドスケープを読み解くための方法 谷川咲（福岡教育大学大学院）	台湾の美術教育における主体性 から“台湾のアイデンティティ”への思考－その背景－ 林筱蓉（上越教育大学）	明治後期の幼稚園における図画教具に関する研究 牧野由理（城西国際大学）	図画工作科における地域ブランドの教材化の研究－地域ブランドの教材化への構想－ 橋本忠和（北海道教育大学）	スペインにおけるCLILを導入した美術教育の研究－英語版図工教科書と指導書の内容を中心に－ 藤井康子（大分大学）

◎フォーラム概要
2014 大学美術教育学会　福井大会フォーラムテーマ　「美術・遊び・大人⇔世界（共同体）」

「かすかな光へ－大田堯　生命のきずなへの道程」（監督：森康行）これは、戦前戦後を通して、人間の生に根差した教育の在り方を問い続けてきた教育哲学者「大田堯」のドキュメンタリー映画である。福井大会のフォーラムでは、スクリーンに映し出される大田堯の思索と実践と向き合うことから、フォーラムという広場をつくり出していきたい。そして、ドキュメンタリー映画の感想を互いに交流させる対話から、「今、私たちが本当に向き合わねばならない課題とは何か」といったヴィジョンへと変容する「問い」を参加一人一人の中に創出されることを期待したい。

「美術教育」という言葉を基本的な要素に分解してみると、「美術」、「教える」、「育つ」という３つの言葉が導き出されるが、これらが最終的に目標とするところは、端的に「世界（共同体）」への参画・参入にあると考える。美術の表現行為とそれを取り巻く様々な現象は、この為の独特な方法であると捉える視点をまずおいてみたい。そして、その為の媒体や触媒として、特に「遊び」という考え方をここに加えてみたい。

「遊び」には様々な意味が含まれるが、先ず自由な発想が自在に動き始める無色の場所を想像している。議論があらかじめなんらかの色に染められているところで、いくら表面的には活発に展開したとしても、ある水準を超えることはないし、果たしてそこでいか程の成果を期待することができるだろうか。又、「遊び」には、有用であるとか、有益であるという、時に固執ともなりかねない意識から一旦距離を置くことが含意されている。いわば不真面目で無責任な態度を推奨はしないが、許容されるものとしてとらえ、常識というものを瞬間でもいいから転倒させることを、言葉は悪いが意図している。逆に言えば、今はそのようなことが真剣に必要とされる状況だとも言えるだろう。そして「遊び」が美術の本質に深くつながっていることは疑いのないことであって、「遊び」でない美術活動などはそれこそ異常な行為でしかない。更に「遊び」は「教える」ことと「育つ」ということとも強く関連付けられている。心や精神が他者や事物と豊かな関係性を構築するためには、その内側に隙間を保っておく必要がある。場所というと誤解を招くかもしれないが、自身を能動的に動かす為の心理的空間ととらえてもいいだろう。そしてこれら複数の意味を含んだ「遊び」が「世界（共同体）」を作り上げる原動力となることを考えている。「想像する力」が働く場所であり、「創造力」が発現する舞台でもある。

さて、「世界（共同体）」のなかの一員として責任を果たすことのなかには様々な側面があることが想像される。「育つ」ということのなかには、とりわけ「大人」になることが必須のこととして求められるし、そのなかでの社会的義務を自問することから「世界（共同体）」に対して、一人ひとりが独自の貢献をしなければばらない。「公共性」や「市民意識」といったことにも当然関心を持たなければならないし、それは大人としての義務でもある。この為には、個人と「世界（共同体）」が相互に相手を包摂するという構造が考察されなければならないし、そこで私達は、「美術」という営為が何であるか、又、何を成し得るかということを探らなければならない。そして、これらのことを、学校教育のなかの「美術教育」ということに留めず、教育という、より大きな枠組みからの視点を通して明らかにし、私たちが示す知見として一般に提議する義務と責任があると考えるべきである。又、これに加えて、私たちは「美術」という表現そのものに対しても責任を課せられている。「美術」を学ぶうえでの基礎的な知識の獲得や、その為の修練という視点をなおざりにすることは出来ない。多くの貴重な才能が適切な助言と指導もなくあたら失われてしまったという思いを拭うことは出来ない。

ここで「教える」ということにも簡単に言及しておかなければならないだろう。一般論として「美術」を教えるという事で言えば、様々な教材の開発や、継続的な指導法の研究など、豊富な事例と共にいかにも充実しているという印象を持っている。当然「美術教育」の１つの核でありその背景でもあるが、それが冷静な批評を伴わずに、自己目的化してしまうのでは、本質を損なうことになりかねない、ここで詳細を論じることはできないが「教える」ということには、常に「教えることは可能か」という言葉を置いておかなければならない。「教える」ことの危険性を認識していなければ、そもそも「育つ」ということが危うくなってしまう。

さて「美術教育」が置かれている状況は、とても厳しいものがあると巷間では言われているし、それを否定するものではないが、果たしてその厳しさの正確な実態は本当に理解されているのだろうか。学校教育（中・高）における「美術」の時間数の減少と美術専任教員の削減といった具体的な問題は見えているが、それを招いた複合的な原因が問われることは稀なことのように思われる、しかし、ここを１段も２段も探らなければ何も見えてこないことは明らかなことであって、逆に、危機の正確な把握から、「美術教育」の本質とその確固とした基盤を再構築する貴重な契機を見出すことが想像されてもいいのではないだろうか。そのなかで、例えば「情報」と「身体」の在り様の大変化は、顕著なこととして、根本的で緊急な課題の１つだと考えていいだろう。美術という営為がここで果たすべき役割と能力は決して軽いものではないし、社会に対して特に大きな責任が問われていることは厳に意識しておかねばならない。今の情況は、いわば期待が逸らされていることに対しての苛立ちの表れであるという事を考えていいのではないだろうか。

様々な意味で時間的な余裕がさほど残されているとは思われない。美術に携わる私たちの真摯で持続的な対話の中から、力強く可能性を持ったヴィジョンとなる「問い」が立ち上がらなければならないだろう。学校教育にとどまらず、人として生き抜くことの条理を問うてきた大田堯の思索と実践は、そんな私たちの希求に応える「問い」の創出に力を与えてくれるであろう。

【フォーラムの進め方】

① 9:30－ 9:40　挨拶・テーマ説明　　福井大会委員長　宮崎光二（福井大学教育地域科学部教授）

② 9:40－11:05　ドキュメンタリー映画「かすかな光へ－大田堯　生命のきずなへの道程」
（ウッキー・プロダクション）

③11:05－12:30 グループでのラウンドテーブル
コーディネーター　　冨永良史（発創デザイン研究室　代表）

【ドキュメンタリー映画「かすかな光へ－大田堯　生命のきずなへの道程」について】

2011年DV-CAM／4:3／84分／日本／ドキュメンタリー／カラー／ひとなるグループ

監督：森康行

音楽：林光／詩朗読：谷川俊太郎／ナレーション：山根基世／朗読：津嘉山雅種ほか

撮影：西島房江　前川光生／編集：古賀陽一／制作：ひとなるグループ

～いま、伝えたい　生命きずな～

◆戦前戦後を通して日本の社会と人間を見つめ、教育の在り方を問い続けてきた教育研究者大田堯。さまざまな生活現場に生きる人たちとふれあう中ですすめてきた大田堯の教育研究は、「教え育てる」という既成の教育感を根底から覆すものである。生きるとはどういうことか。学ぶとはどういうことか。学校の教育にとどまらず、人生を生きぬく条理を探究する。教育を通して人間を見つけ続けてきた大田堯の思索と実践の軌跡を映し出す。

◆題名の「かすかな光へ」は谷川俊太郎の同名の詩により、朗読は詩人自ら行っている。林光の音楽は、大田堯の思索と行動を伴走して、明るい。監督は、夜間中学校の記録映画「こんばんは」(2003／第１回文化庁映画賞　文化記録対象受賞／キネマ旬報ベストテン　文化映画第１位／毎日映画コンクール記録文化映画賞受賞)の森康行。編集は「ビキニの海は忘れない」(1990)、「渡り川」(1994)など、森の作品すべてにかかわってきた古賀陽一が担当した。

（作品概要・スタッフ　DVDリーフレットより転載）

■アクセス

JR 福井駅 下車　東口から徒歩 1 分
越前鉄道三国芦原線　福井駅で乗り換え
福井駅ー福大前西福井駅 下車（10 分）

○越前鉄道三国芦原線 ダイヤ

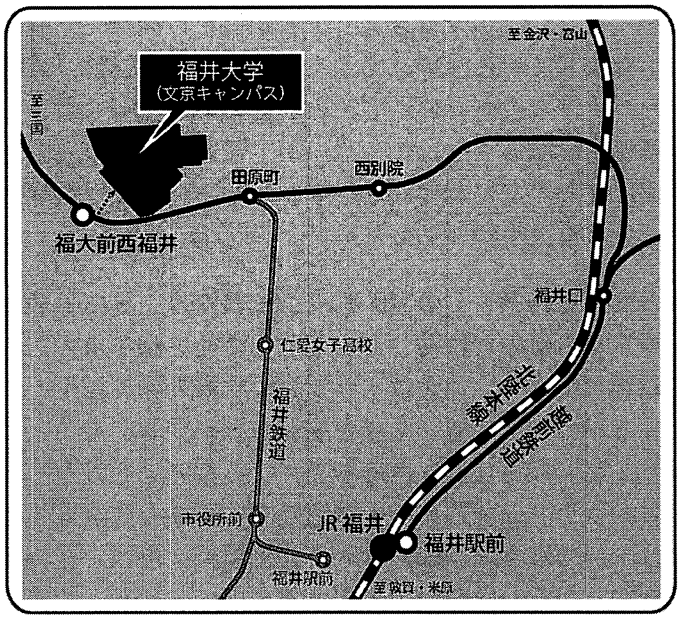
三国港方面〈福井駅発〉

6	17　51
7	□06　25　52
8	□11　41
9	この間毎時
～	10　40
21	

福井方面〈福大前西福井発〉

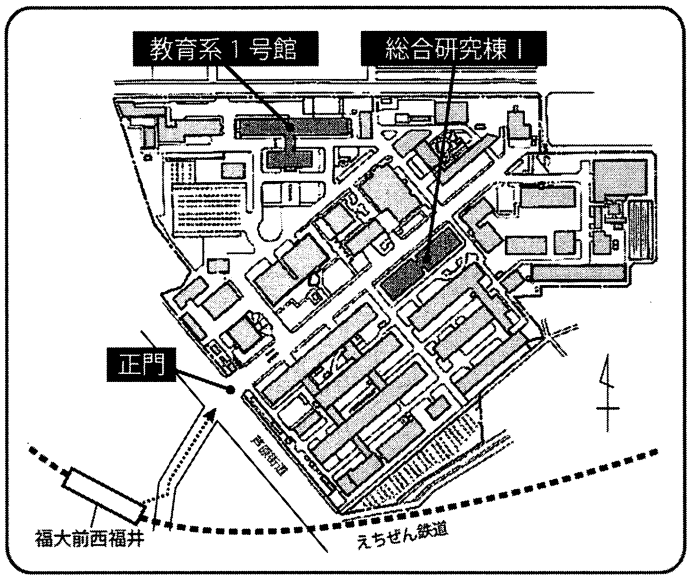
10	
～	この間毎時
21	19　49
22	49

□は土休日運休

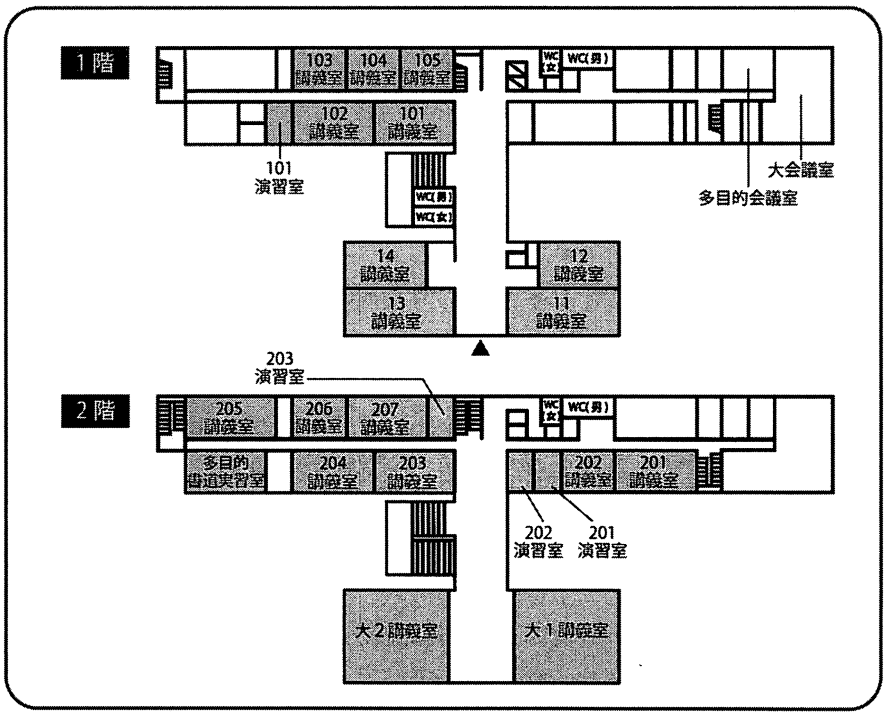


■福井大学 文京キャンパス 学内全体図

自家用車でお越しになる方は、入構時に受付が必要となります。正面ゲート 左手前の受付所で手続きをして下さい。



■教室配置図
（教育系１号館）



学会誌『美術教育学研究』

平成 26 年度　学会誌委員会委員長
新関伸也（滋賀大学）

本年度より、全面的に学会業務を京都の中西印刷(株)に アウトソーシングすることになりました。学会誌の投稿方法や査読体制を全面的に改め、学会 Web や電子メールによる業務推進が図られます。それに伴い、まず論文投稿方法ですが、昨年度と同じように、学会 Web からの申し込みとなります。ただ、ホームページ（システム）が変更となったため、これまでと比べて大きく変わりました。投稿論文案内、投稿用テンプレートをダウンロードし、論文執筆用の Word のフォーマットを利用できます。学会誌の組み版後の校正は「初校のみ」となりましたが、メールによる PDF による校正は、初めての試みでしたが、大方の執筆者の方々にご協力を頂き、印刷所とのやり取りもスムーズだったと聞いております。これまでの紙媒体や郵送によって生じるタイムロスや経費増額を考えると、電子メールによる PDF 校正は、経費削減からみても避けられなくなっています。

また、ペーパーレスで査読、編集業務を進めることになります。従って本年度は学会誌委員会も昨年度並みの開催が必要かどうか、検討しているところです。論文査読は、投稿論文 1 編につき 2 名による査読に変更なりましたが、ていねいな査読結果と報告書を頂き、今後は 2 名の査読体制で十分可能であると判断したところです。しかし、査読結果が分かれた場合には、掲載の可否を決定する学会誌委員会、そして 委員長、副委員長の冷静かつ厳正な判断が迫られることになります。年々、大学内の業務が増えていることが関係しているためか、査読を断る方も増えております。

学会の業務推進にあたり、変革期や移行期間には、予測できない事態も予想されますが、未来の学会の発展のためにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、日本学術会議協力団体に登録以降、本学会の目的の一つとして、科学技術振興機構の Web サイト「J-STAGE」への論文掲載があります。「美術教育学研究」第 46 号から誌面デザインを全面的に変更し、「J-STAGE」掲載にむけた体裁にしておりますが、まだ微調整が必要です。執筆要項、体裁を年度末には確定させますので、その節はご理解とご協力をよろしくお願いします。

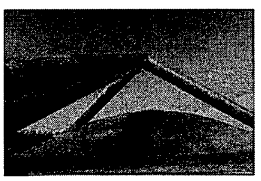
学会・部門の新ホームページ開設

平成 26 年度総務局長
芳賀正之（静岡大学）

全国美術部門及び大学美術教育学会は、学会の専門会社である中西印刷に業務委託を行い、それに伴い、年一回の協議会・大会についても円滑に進めるために、オンライン大会登録受付システムを導入しております。国立法人化以降、各大学の教員の仕事は多忙になり、部門の協議会及び学会の大会を開催するに当たり、大きな負担になってきたこと、また、大学改組により教員養成の美術教員が減らされ、協議会・大会を引き受け、実行できる大学もあれば、かなり厳しい状況の大学もあります。その改善に向け、福井大会より中西印刷の e-naf＋（オンライン大会登録受付システム）を試みております。

さて、部門と学会の新ホームページのコンテツが決まり、工事中のページも残っておりますが、会員の皆様にとって重要なところは完成し、すでにご活用して頂いております。入会退会の手続き、大会案内・申込み、学会誌論文投稿等々、これまでとは異なる方法（オンライン化）を導入したことは、今までに無く画期的なことです。しかしながら、初年度ということもあり、様々な問題が起きることも予想されます。

今後継続していく中で、システムを運営する中西印刷側に部門・学会の大会の実態を伝えながら、互いの意見をすり合わせながら改善し取り組んでいきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。また、時代とともに部門へのかかわり、さらに学会の関係が曖昧になってきおり、年一回の協議会や全国大会に対する教員の意識が薄れてきていることも、近年、検討課題として浮上してきております。その改善に向けて、現在、部門運営の立て直しを図っており（左段・「学会誌『教育学研究』」参照）、合わせて、ご期待に添えるような新ホームページでの情報発信をめざしていきたいと思っております。

【総務局広報室】

芳賀正之（静岡大学）
佐藤賢司（大阪教育大学）
新野貴則（山梨大学）